

GR

参考資料2



GAIA Annual Report 2022



生物多様性あいち学生プロジェクト GAIA2022

来年度(2023年度)リーダーを務めます、
因藤来夢です。
今年度、活動に参加させていただいた団体の皆様、
ありがとうございました。
多くの貴重な経験をすることができました！

2022年度は、フィールドでの活動に加えて動画やパネル・
絵本の制作といった情報発信に力を入れて活動することができ、
GAIAがステップアップする年になったと思います。
来年度はさらに成長する年になるよう頑張りたいです！

GAIAは、愛知県の様々な自然環境に触れるため、
普段気づかないような発見をすることができます。
また、多様なメンバーとの交流も楽しみの一つです。

環境保全活動は「堅い」というイメージを持つ方が多いと思いますが、
GAIAは楽しむことをモットーに活動しています。

来年度もたくさんの活動に参加・企画し、
環境保全活動が楽しいということを
伝えていきたいと思っています！

2023年度リーダー
中部大学
因藤 来夢



WE ARE GAIA

守る、広げる、つなぐ。
大きな2つを軸として、わたしたちは活動しています。

保全活動

情報発信

自主企画

GAIA
ユースが拓げる生物多様性団体

EXPO

交流

保全活動を学び、体感し、伝える。
生物多様性を守り、広める活動を行っています。

Index & MAP

2022年度は9ヵ所での活動に参加、また様々な自主参加・企画活動を行いました。



GAIAとは	02-03
Index & MAP	04-05
佐久島海岸清掃&島内サイクリング	<u>西三河南部</u> 06
湿地は希少種の楽園！～湿地保全体験～	<u>東部丘陵</u> 07
『自然再生』とは何か？～草原再生を学ぶ～	<u>東三河</u> 08
企業と連携した外来種駆除活動	<u>西三河</u> 09
エコミーティング体験&ビオトープ見学	<u>尾張西部</u> 10
湿地の希少種モニタリング調査	<u>新城設楽</u> 11
人の手で守る“里山”～里山整備体験～	<u>尾張北部</u> 12
竹林整備体験&竹皿カレー会	<u>知多半島</u> 13
海岸清掃 + 塩づくり&BBQ	<u>渥美半島</u> 14
Special Activity #1 SDGs AICHI EXPO	<u>SDGs EXPO</u> 15
Special Activity #2 GAIA自主企画 in 愛知こどもの国	<u>こどもの国</u> 16
Another Activity	17
情報発信活動	18-19
メンバー紹介	20
WHAT'S GAIA? メンバーへアンケート	21
GAIAへのメッセージ	22
編集後記	23

佐久島 海岸清掃&島内サイクリング

日時：2022年7月9日(土)

場所：西尾市 佐久島



海岸清掃

海岸に漂着しているゴミをメンバーみんなと協力して拾いました。1時間程度の清掃で、持っていたゴミ袋がいっぱいになってしまうほどのゴミを拾いました。ゴミの中には、ペットボトルや缶などの家庭ごみだけではなく、「なぜこんなところに?！」と思ってしまうような、洗剤の容器や市外の看板、ゴミ袋、タイヤや木箱などの大きなゴミもありました。

また、釣り具のゴミも多く落ちていました。釣り具のゴミは、海に流れてしまうと海に棲む生き物たちが誤飲してしまい、死んでしまう危険性があります。釣り具のゴミは小さいものや細いものが多いからこそ危険であると感じました。

昨年の海岸清掃参加者によると、海岸ゴミの量が以前に比べ少なくなっていたという声もありましたが、まだ完全にきれいになったというわけではありません。このことから、定期的な海岸清掃が重要だと再認識しました。

島内サイクリング

昼食を食べた後、午後は島内をサイクリングで巡り、アート作品やスイーツなどの魅力を発見し、メンバーとも交流を深めました。

佐久島は三河湾の真ん中に位置しているということで、島のどこからでも綺麗な景色を眺めることができ、海岸にはさまざまな貝殻もありました。自転車でサイクリングをしながら実際に自分の目で見て、触れることで、写真で見るだけでは伝わらない島の魅力を感じることができました。

このような島の魅力を伝え、まず、観光に多くの方に来てもらい、海岸ゴミについて触れる機会を作ることができれば、地域活性化と環境保全を両立することができると感じました。



活動を通して

佐久島のある西尾市以外の市名が書かれている看板やゴミ袋など他の場所から流れてきたであろうゴミも今回を拾うことができ、潮の流れにより佐久島に流れ着いた川から流れ出したゴミということがわかりました。

佐久島の海岸清掃に参加して一番強く感じたことは、環境を保全していく中で一部の人以上で努力するのではなく、自分事として考えて一人ひとり意識を変える必要があるということです。

ゴミは全ての方が毎日必ず出します。そのゴミの捨て方を少し気をつけるだけで、漂着ゴミを劇的に少なくすることは可能だと考えます。そして、全員が意識を変えるためには、まず海岸ゴミについて知ってもらう必要があると思います。

今後も、海岸清掃の活動に参加し豊かな海を守ることに貢献していきたいです。

GAIAのみなさんには、2022年7月9日土曜日に佐久島の漂着ごみ回収に参加いただきました。佐久島での活動は毎回楽しんで参加していただき、こちらも皆さんに会うのが楽しみです。次回は、ごみ回収だけでなく、次のステップへ行きましょう。こちらは体制整えて待ってまーす。

島を美しくつくる会

三矢 由紀子 様



湿地は希少種の楽園！
~湿地保全体験~

日時：2022年8月9日(火)

場所：長久手市 ニノ池湿地群



希少な湿地の生態系を守る

「長久手湿地保全の会」さんは定期的な生態調査を通して、東海地方にある様々な湿地を保全されています。今回私たちが入らせていただいたニノ池湿地は、地下から水が湧き出ている湧水湿地です。過去には、この土地は定期的な土砂崩れが起こった形跡があります。十分に森林が発達した区域が少なく、かつては、栄養が少ない土地が広域に広がっていました。それ故、栄養価の少ない土地を好む植物が多く生育しています。

現在は周囲に住宅街ができたことで治水・治山対策が十分に行われ、土砂崩れが起きにくくなりました。その影響で肥沃な土地になってしまったので、栄養価の少ない土地を好む植物は減少しているそうです。

活動報告

今回私たちは湿地に生息する希少種の観察と、希少種保全のための草刈りを行いました。希少種観察では、あまり見ることでできない食虫植物であるトウカイコモウセンゴケや、とても小さい花を咲かせるミミカキグサ、特徴的な花弁を持つサギソウなど、気をつけて歩かないと踏んでしまいそうな小さな植物の世界に引き込まれました。

草刈りは真夏の暑い日だったので長い時間は行えませんでした。草刈りがたまりやすい斜面の下草を刈りました。湿地の植物は貧栄養の土地に好んでいる生育しているため、草刈りをして刈った草をよけることで湿地富栄養化の進行をとどめるようにしています。



活動を通して

私は今回初めて湿地に足を踏み入れ、湿地の世界に魅了されました。これまであまり触れることのなかった湿地という自然環境で、今まで見たことのない植物や虫に出会い、改めて生物多様性を構成する3つの多様性のうち「生態系の多様性」を感じる事ができました。

また、人の手は極力加えないことが保全と思っていたことが、人の手を加えないといけない保全の形もあることに驚きました。

今後は他の湿地も見学しながら、湿地における生物多様性について理解を深めていきたいと思います。

この活動のやりがいには、毎年活動の成果を感じることができ、仲間とワイワイ活動するのが楽しいことです。

普段はお年寄りばかりで活動しているので、今回水が多く大変な場所の草刈りを手伝ってもらえたのはすごく助かりました。またぜひ活動に参加してほしいです。

今回の活動で少しでも植物の可愛さが伝わったと思います。「雑草という名の草はない」というように、日常生活の中でも今日のことを思い出して、植物をかわいがってもらえたらうれしいです。

長久手湿地保全の会
会員の皆さま



『自然再生』とは何か？ ～草原再生を学ぶ～

日時：2022年9月10日(土)
場所：東三河ふるさと公園



失われた里地里山を後世に残すために

東三河ふるさと公園を「陸の豊かさを守る」SDGs活動の拠点とし、地域環境リーダーが中心となり、在来種の保全や外来種の駆除等の自然再生・保全活動を実施するとともに、新たな人材の育成とSDGs理念の啓蒙を図ることを目的として東三河環境SDGs実践事業が進められています。

東三河ふるさと公園三河山野草園では「失われた里地里山を後世に残すために」というテーマで多様な在来種の保全とカヤネズミが生息し、繁殖できる草地を目指しています。



活動報告

【虫追い&植生モニタリング】
虫追いは、草地の中心に敷いた白い布に向かって一斉に足踏みをしながらかつぎ虫を追い込むもので、どんな虫がいるかを調べるために行いました。

植生モニタリングでは、フレモック区間とオミナエシ区間で決められているコードラート内に生えている植物の種名と高さ、群度、被度を記録しており、ひと月に1回～2回のペースで継続的に行われています。

【在来種外来種椅子取りゲーム】
お昼からは、配られた植物のカードを持ちながらじゃんけん椅子取りゲームを行い、最終的にどんな植物が残っていたかをみんなと共有するゲームを行いました。最初に椅子に座っているのは在来種で、その後どんどんじゃんけんに負けて入れ替わっていく外来種たちを見て、直感的に外来種が侵入する様子分かり、GAIAでも取り入れてみたいと思いました。

活動を通して

建設工事後の緑化には景観保全、表土流出の防止のため短期間で早期に緑化が可能となる外来植物が多く活用されています。しかしそれによって在来種の生育が脅かされていることも少なくありません。今回の活動を通してそのことを知り、外来種緑化が他の問題を引き起こしてしまうことを学びました。

茅場の植生調査では、以前裸地にした場所とそれ以外の場所で一年草の植物が生えているかどうかの違いが見られました。裸地化した試験区ではカタバミなどの一年草の植物がしっかりと生えていて面白いと感じました。また、実際に行政が定期的に手入れをしている試験区と今回GAIAで訪れた生態系に配慮している試験区では、後者の方が粗雑な印象を受けましたが、圧倒的に前者よりも昆虫の大きさや数に差があったことも面白く感じました。

ふるさと公園には里山の自然がよく残されており、このふるさと公園を今後も活用していくために様々な取り組みが行われています。私たちはそんなふるさと公園を今後もみんなに伝え、利用して、そして里山について学び深めてもらうために活動をしています。

そんな里山との自然との接し方にはありとあらゆる接し方があります。私たちはその接し方を頭ごなしに否定することはありません。危険であったり、自然に負荷が強くなることから考えてからより良い行動に変えてもらいます。その前提の中で、自然の面白さを見つけてください。

東三河地域環境リーダー養成講座
アドバイザー講師

瀧崎吉伸様



企業と連携した外来種駆除活動

日時：2022年9月16日(金)・17日(土)
場所：刈谷市 刈谷ふれ愛パーク



基本理念は「環境と調和」

「トヨタ車体(株)」さんは「地球にやさしい車づくり、人にやさしい車づくり」の基本理念の下、「地域と共生、自然と調和する工場」を目指しています。

その一環として「刈谷ふれ愛パーク」を設立し、地域のみなさんがスポーツのできる場所、農業が体験できる場所を提供するとともに、自然共生の場としてピオトープも創出しています。

さらに、刈谷ふれ愛パークに隣接しているため池で、地域住民と協力してミシシippアカミミガメの駆除を定期的に行っています。

〈ミシシippアカミミガメとは?〉
ミシシippアカミミガメは池や川で見かけるカメの一種で、北アメリカが原産の外来種です。昔、ミドリガメとして日本にやってきて、緑日などで、売られていました。ペットとして飼育されていた個体が近くの池や川に放流されたことがきっかけで野生化しました。在来種であるニホンイシガメよりも繁殖力が高く、在来種を駆逐し、日本の生態系を破壊していることから「生態系被害防止外来種リスト」において「緊急対策外来種」に位置付けられています。

活動報告

【1日目:カメ罠設置】
矢部先生ご指導のもと、カメを捕獲するための罠を設置しました。カメを誘き寄せるための餌の設置方法から罠を固定する紐の縛り方まで初めてつくして頭を悩ませながら行いました。

【1日目:トヨタグループ勉強会】
トヨタグループ内で行われた勉強会で社会人の方にミシシippアカミミガメの駆除方法や外来種問題についての説明を作業実践しながら行いました。社会人の前ということもあり、緊張で上手に説明できなかったのが悔しかったです。

【2日目:カメ罠回収】
前日に設置した罠を回収しました。罠の中にはミシシippアカミミガメやスッポンが入っていて、大きいカメが入っている罠を引き上げるときは流石に苦労しました。縛った紐を解くのに時間をかけてしまい、未熟さを痛感しました。

【2日目:カメの計測】
捕獲したカメの大きさを計測しました。このデータは次回以降の駆除活動に役立てるそう。カメが思い通りに動いてくれなかったため、1箇所計測するだけでも時間がかってしまうことがあり、大変でした。



活動を通して

毎年活動の規模が大きくなり、この活動が支持を受けていることを実感しています。捕獲したミシシippアカミミガメも調査地によっては駆除がほぼ完了した場所もあり、継続することの重要性を感じました。環境問題は効果が見えるまで時間がかかるものや、とれだけ頑張ってもイタチごっこで効果が数値として現れないこともあります。

しかし、そこで諦めてしまうと努力が水の泡になってしまいます。見た目の効果が確認できないことが例えあっても、やることやらないは大違いです。これからも環境保全活動などに継続的に取り組んでいきたいと思えるような活動でした。

6年間の駆除活動により、南池のアカミミガメ駆除が進んで、アカミミガメに食べられていた水生植物のカガブタやヒシが生え始めています。これからはそれらの植物が蔓延りすぎないように人間が適切に管理していく必要があります。刈谷ふれ愛パークでの活動は、外来種防除の観点から見ると、成功している事例だと考えています。生き物を取ったり、調べたりすることを楽しみながらやって、関心を深めたり、自然のことを好きになって、環境問題の解決や自然の保護に携わってほしいです。

また、刈谷北部の自然がある池から動物が移動できるような場所作りなどができたらいいなと考えているので、興味がある人は参加してほしいです。

トヨタ車体株式会社

志水 剛 様



尾張西部

エコミーティング体験 & ビオトープ見学

日時：2022年9月23日(金)

場所：愛知県あま市七宝町【工事現場】
愛知県海部郡蟹江町【ビオトープ】



エコミーティング

【エコミーティング】は、工事現場にて自然環境に配慮するために行われる会議です。今回は実際に蟹江川（愛知県）に架かる予定の橋について検討しました。工事現場は、橋の土台部分が既にコンクリートでできあがっていますが、今回は橋の土台が無いことを想定しています。生態系への悪影響を最小限にし、生き物の棲む自然環境を作るにはどのような方法があるのかを検討しました。例えば、橋ではなくトンネルを作る、計画よりも高い橋にするなど橋の形についての意見や、橋に田んぼを作る、川の中にガラス張りの橋を作ったら水族館みたいで楽しいなどの意見が出ました。

エコミーティングでは、一人一人が意見を出し合うことで、自分では思いつかなかった視点を知ることができ、とても参考になりました。また、技術面、金銭面で実現可能かどうかを抜きにして考えることで、アイデアの幅が広がったと感じました。実際に実現できるかどうかは別として、従来の橋の形式にこだわらず、よりよい形を追求することの大切さを実感しました。

ビオトープ見学

エコミーティングの後、ビオトープの観察をしました。池に仕掛けてあったワナからは、在来種のモツゴに加えて、外来種のアメリカザリガニやカタヤシが多数捕獲されました。

加藤建設さんによれば外来種は捕獲されるたびに処分されているそうですが、個体数が多く根絶にはまだまだ時間がかかるそうです。外来種の繁殖力の強さを実感しました。



活動を通して

今回の活動を通じて学んだことは2つあります。1つ目は、環境配慮計画を検討する時、あえて技術面、金銭面などの制約を考慮せず、理想の計画を追求することの重要性です。そうすることで、様々な画期的な考えが生まれてきます。

2つ目は、「外来種は持ち込まない」を徹底することです。加藤建設さんのビオトープの例から分かるように、外来種は一度侵入してしまうと、なかなか根絶できません。「持ち込まない」ことが、その地域の生態系を守る確実な方法です。

皆さんは将来、様々な道に進むと思います。しかし、自然環境は切っても切り離せないものです。生物多様性に対する皆さんの意識が高まり、より良い方法に向かっていくために、異なる分野の人々が協力していく、というのが大きな目標です。

私たちは、皆さんに自然環境を大切にしていける楽しさをどんどん広めてもらいたいと思っています。学生ならではの発信方法やアイデアをどんどん使って、自然環境を大切にする楽しさを伝えてほしいと考えています。

株式会社加藤建設
経営企画室 自然環境課

久坂 耕様



新城設楽

湿地の希少種モニタリング調査

日時：2022年10月2日(日)

場所：黒瀬庄ノ沢緑地、鴨ヶ谷湿原、長ノ山湿原



湿地のあり方

今回の活動では、主要な湿地の場である長ノ山湿地に行く前に、黒瀬庄ノ沢緑地と鴨ヶ谷湿原を訪れました。

黒瀬庄ノ沢緑地は選択的な草刈りや、遊歩道の整備、水量の維持を徹底して管理しているため、人による管理がかなりされている場所です。

一方、鴨ヶ谷湿原は、人による管理が全くされていない場所で、残念ながら放棄状態にあります。

どちらの場所も、「湿原」ですが、人による管理がされすぎると、それは「自然」ではなく、「人工的」に作られたものだという意見があります。一方で、人による管理が全くされていないと、植生遷移がすすんでしまい、やがて森林に遷移してしまう可能性があります。

このように、人による管理をどこまでするのが湿地の維持の課題になります。

長ノ山湿地のあり方を考える

2つの湿地を見学した後、私たちは今回の活動のメインである、長ノ山湿原に行きました。

この場所は、昭和48年11月に愛知県の天然記念物に指定されました。その後、湿地の管理をどうすべきか、様々な議論がなされていますが、いまだにその方向性は定まっていません。湿地の保全目標をどうするか、そしてその達成のため何をどのような管理すべきかが、一番の焦点です。

その管理方法を考えるために、まずは今回のモニタリング調査で、この長ノ山湿地にどの生物が生育、生息しているのかを調査しました。今回の調査では、ヌマガヤ、ツクダマアザミ、ミミカキグサ、ホソバランドウ、ホヅキミミカキグサ、ミスギク、ウメバチソウ、サワギキョウの生育が確認され、メダカ、ハッチョウトンボの生息が確認されました。



活動を通して

私はこの活動を通して、湿地に限らずどの自然においても、人による管理をどこまでするのが自然環境保全で重要なポイントになるのではないかと考えました。

湿地は、完全に放置してはいけなく、植生遷移が進行し森へと変化していきます。しかし、湿地にしか棲めない生物を守るには、湿地の維持が重要になります。湿地特有の生物を守ることは、「生物多様性」を守ることに繋がります。

また、湿地を維持するのにも、草刈の費用などの維持管理費が必要となります。それ故、費用を捻出するため、湿地の観光地化も考えて良いのではないかと私は考えます。

湿地の観光地化も含め、大きな視野で湿地のあり方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

東三河総局の実施する東三河自然再生推進事業では、実践的な環境保全活動を通じた人づくりや普及啓発活動を行っています。

この事業では主として即戦力となる人材の育成を目的としています。地域の自然を保全していくためには、今、活動していただく方だけでなく将来を担うユース世代の方の協力が不可欠です。GAIAの皆さんには様々な活動を見て、体験していただき、そこで感じたことを同じ世代の方たちに広めていただければと思います。

愛知県 東三河総局 環境保全課

柴田 夏希様



尾張
北部

人の手で守る“里山”～里山整備体験～

日時：2022年11月26日(土)

場所：犬山市 犬山里山学センター



活動報告①

NPO法人犬山里山学研究所の皆さんと、田んぼの水路掘りを行いました。田んぼに行くまでの山道を進みながら、自然観察をしました。里山ならではの袖物やインシシの足跡を観察できました。
田んぼに着いたら、先に作業をしていた職員さんから、なぜ排水が必要なのかの説明を受けました。お米を収穫するためには田んぼの水を抜く必要があるため、排水が上手くできないとお米が腐って収穫できなくなってしまいます。雨が降ると掘った水路が埋まってしまうことや、田んぼをインシシに荒らされることも聞きました。

活動報告②

説明を聞いた後、田んぼの水路掘りをしました。水を吸った粘土質の土がとても重く、掘るのに苦労しました。田んぼの整備をしている【栗づくり塾】の方々は、田んぼの排水のために毎年水路を掘っていると話していました。その継続的な取り組みがすごいと思いました。土を掘っているとミミズやオケラなどの生き物が出てきたり、周辺にはカエルがいるなど、田んぼの生態系の豊かさを実感しました。
水路掘りの後、犬山里山学センターの見学を行いました。近隣の里山に生息する生き物の標本が展示されていました。



活動を通して

今回の活動を通して、お米づくりの大変さを知ることができました。私は、田植えをして稲が実ったらそれを収穫して終わりだと思っていましたが、排水ができないと収穫もままならないことを学びました。
以前、コンクリート張りの護岸の水路を見て、「環境に悪いのに、なんでこんな護岸にするんだろう」と思っていました。しかしながら、今回、水路を掘る作業を体験し、その大変さをひしひしと感じました。毎年この作業が必要であることを考えると、護岸の水路も必要であると思いました。
農家の仕事はお米をつくることであり、環境を守ることが主な目的ではありません。農業と環境保護の両方が容易でないことを実感しました。今後も、農業と環境保護が共存できるよう、取り組んでいきたいです。

犬山里山学研究所は、15～16年前に同じ考えを持った人々が集まってできました。大学や研究機関ではできない役割を担い、「市民がつくる里山学」を形成することを目指しています。
以前から生物調査や環境保全を実施するとともに休耕田を農地とし活用できるような整備をしています。里山整備は、人間と動物がすみ分けるためにも必要だと考えています。インシシの被害や排水などの問題は苦労していますが、自然と触れ合えることがやりがいです。

NPO法人 犬山里山学研究所

沼田 浩様



知多
半島

竹林整備体験&竹皿カレー会

日時：2022年12月4日(日)

場所：美浜町 布土地区内竹林



里山の環境を守るために

知多半島に位置する美浜町は海と山に囲まれた自然豊かな環境ですが、外來種のモウソウチクによる森林の劣化が問題となっています。この竹は繁殖力が非常に大きく、わずか1年で8メートルほどにまで成長します。そして竹の先端に葉が生い茂り太陽の光を遮るため床部に光が行き届かず、他の植物の成長が阻害されて単調な森になってしまっています。
そのような状態を解消するため、美浜町竹林整備事業化協議会「モリビトの会」さんは過密に生育している竹を切り倒し、森林内に日光の当たるスペースを適度に作ることなどの森林の再生活動に取り組んでいます。また、切った竹を燃やして炭を作り、それを畑にまくことによる有機農業の普及促進に役立てることも主な活動としています。

活動報告

【竹林整備】
モリビトの会の方々に指導していただきながら、一人1本の竹を伐採しました。竹には重心があり竹の倒れる方向などを確認しながらのこぎりを半分まで入れてから反対側から少し段差をつけて切ることで、竹の重みで倒すことを学びました。この作業では、声で周りの人に注意を呼び掛けながらすることが事故防止につながることも学びました。また、竹の運搬作業も体験しました。竹を斜面に滑らせるのが非常に難しく、途中で引っかかったりすることがありました。そのたびに修正する作業が大変で、かなり体力を要する作業でした。
【竹炭作り】
伐採した竹から竹炭を作る作業を行いました。竹を火の中に入れて黒くなるまで焼き、その後、水をかけながら人の足で踏みつけ細かく砕きました。この作業でできた竹炭を畑などに混ぜて使うことで土壌改良ができたり、二酸化炭素の固定に役立ってほしいです。



活動を通して

今回の活動では、竹林の整備が重要だとわかりましたが、担い手が少なく、参加者も少ないため、思った以上に進んでいないことがわかりました。また、竹炭を作って販売しても、売れることは少なく、大量に倉庫にたまってしまっている現状があることもわかりました。
竹林整備を初めて体験しましたが、竹の重さや切るときに重心を意識して切ること、竹を滑らせて下まで運ぶことの難しさなど、体力が必要な大変な仕事であることを実感しました。また、担い手が少ない理由についてもよくわかりました。竹林整備がもっと身近なものになるために、今後も取り組みたいと思います。今回の経験を通じて実際に体験することの重要性を再認識しました。

現在モリビトの会は美浜町の荒れた竹林を再生して、それを農業に生かして循環型社会を作ろうという活動を行っています。モウソウチクは成長力が強く、里山の中に進出して元々生えていた木などを枯らしてしまうので、竹を切り倒してそれを燃やして作られる竹炭を畑などに撒いて、有機農業を復興させようという取り組みをしています。モリビトの会は人力でやっていることが多いので、若い人が参加し、人数が多いと雰囲気がよくなり、力作業が楽しみながらできます。
学生達には、今作っている竹炭をどのようにしたら利益を出しながら持続的に活動できるのかを考えてほしいです。

美浜町竹林整備事業化協議会
「モリビトの会」

山野 みさき様



海岸清掃 + 塩づくり&BBQ

日時：2022年12月11日(日)

場所：田原市 西の浜海岸



海岸清掃

田原市の西の浜海岸で海岸清掃を行いました。海岸には、たくさんのペットボトルや空き缶などのゴミの他にも、ぬいぐるみやパイ、緊急用のパラシュートなどの見たことないゴミも拾いました。海岸に落ちているゴミはとても多いため、拾うには多くの人手と時間が必要です。亀の子隊さんは、西の浜海岸で長年海岸清掃活動をしておられます。その中で様々な市区町村の名前が入ったゴミなどを拾われていました。内陸からのゴミも多くあるとお話をいただきました。これは川に流れ出たゴミが川から海に流れているということです。また三河湾は湾口が狭く、海水が流れ出にくく、内湾の海岸である西の浜海岸にゴミが多く流れ着いているとのことでした。

私たちがすべきことは、海岸清掃をしてきれいにするだけではなく、川に出るゴミを無くすことです。そのためにはポイ捨てせずに地域のゴミ収集場所に正しく出す、さらに、ゴミを減らす工夫をしていくことだと痛感しました。

塩作り&BBQ

午後からは、休暇村伊良湖のキャンプ場にて、塩作り&BBQを行いました。塩作りでは、伊良湖の海水を使って塩を作りました。ご指導の元、火を起したら、鍋に少しずつ海水を入れて、沸騰させながら、水分を蒸発させるのを繰り返して、塩を作りました。鍋の底に白いものが付いてきたら完成です。水分を飛ばし過ぎると、鍋の底に付いて焼きじおになってしまうので、少し水分が残るくらいが良いです。作った塩は飯ごうで炊いたお米と一緒ににぎりになりました。味はミネラルを多く含み、深みがあり、いつも食べている塩よりも濃く感じました。BBQでは鉄板で、野菜、お肉、魚介を焼いて食べました。たくさんの量があり、とても満足感がありました。塩も、BBQも活動した後だったので、とても美味しかったです。



活動を通して

この活動を通して、自分達が使用したのや消費したものがゴミとなり、川を通して、海まで流れていることが分かりました。海岸清掃をして、ゴミを捨て、海岸をきれいにするだけではなく、海に流れ出るゴミの量を減らしていくことが大切だと考えます。海洋ゴミの数が海洋生物の数よりも多くなってしまふ現状を知り、1人1人が意識を少しずつでも変えていくことが重要です。たとえば、マイボトルを持ったり、レジ袋をもらわないようにすることや包装の少ないものを選んで買うことにより、自分達が出すゴミの量を少しでも減らして、海岸に流れ着くゴミを減らせるようになっていきたいです。

また自分達が意識していただくべく、これらの現状をSNSなどで発信していき、多くの人に知ってもらい、1人でも多くの方が意識を変えてくれるように努めることも、自分達の役割だと思いました。

亀の子隊は西の浜海岸で海岸清掃を毎月1回に加えて、特別活動として企業や行政もやっているもので、多いときは年15回ほど行っています。加えて、今回のような海の環境を学ぶ会を年7、8回と、イベントなどで広報活動を行っています。

今回は塩作りをしてもらいましたが、塩作りは海が綺麗でないときできません。ユースの皆さんには、今回学んだことを沢山の人の手に伝えることをしてほしいです。また、現代の色々な技術が発達している中でどうしたらゴミが無くなるか、ゴミを捨てない心はどうしたらできるのかということを考えてほしいです。

環境ボランティアサークル
亀の子隊

鈴木 吉春 様



Special Activity 01

SDGs AICHI EXPO 2022

開催概要

日時：2022年10月6日(木)～8日(土)

場所：愛知県国際展示場 (Aichi Sky Expo)

SDGs AICHI EXPO 2022は、国際的な課題や地域の課題に取り組む様々な主体のパートナーシップ構築を目的としたイベントです。GAIAも自分たちの活動をより多くの人に知ってもらうため、去年に引き続き2回目の参加となりました。自分たちの活動を知ってもらうだけでなく他の団体のブースを見ながらたくさんのお話を学びました。

ステージ発表

昨年に引き続き、GAIAはメインブースでのユースセッションと愛知県ブースで取組発表を行いました。ユースセッションでは中高生の発表や意見を聞いて刺激を受けました。また、質問をいただいたことでさらに視野が広がりました。今後またたくさんの方との意見交換を通して視野をひろげていきたいと思っています。



ブース出展

昨年よりも手作り感のある温かみのあるブースになったと思います。ターゲットを決めるなど一から自分たちで作り上げる経験はとても貴重な経験になりました。ブース出展の経験が浅く、インパクトのあるデザインがなかなか思いつかなかったところが苦戦しましたが、出来上がったブースを見ると達成感がありました。GAIAのSNSをフォローしてくれた方にお渡ししたグッズも好評でうれしかったです！おそろいで作ったTシャツは今後活動で着用したいと思います！



エキスポ参加を通じて

私たちは保全活動と情報発信を軸に活動しており、SDGs AICHI EXPO 2022に参加することは情報発信の面でも重要なイベントです。半年かけてミーティングを重ね準備してきた成果を発表でき、たくさんの方に足を運んでいただき、とても有意義な3日間になりました。来てくださった皆さん、ありがとうございました！



Special Activity 02

GAIA自主企画 in 愛知こどもの国

04/09 04/16 04/23 タケノコ掘り & 竹ピラミッド作成



地中にあるタケノコを見つけるのは難しく、採るのも大変でしたが、採れた時の達成感はとてもありました。家で作ったタケノコ料理はとても美味しくかったです。竹ピラミッド作成では、竹を真っ直ぐに切ることがとても難しかったですが、こどもの国に来園する子供達もたくさん遊んでくれて嬉しかったです。

08/20 こんちゅう観察会



観察会では、昼間は虫取り網で捕まえた昆虫を自撮り、夜間はライトトラップや糖蜜トラップを用いて、トラップに落ちてきた昆虫を観察しました。カブトムシやタウガタの他にも、クワムシやガなどの様々な昆虫が確認できました。夕食のご飯は、飯盒炊飯をしたので、ご飯を炊くことが難しかったです。

主な活動記録

- 2022-04-09,16,23 タケノコ掘り & 竹ピラミッド作成
- 2022-06-05,12,18 ホタル観察会
- 2022-08-20 こんちゅう観察会
- 2022-11-12 竹林整備 & 竹炭作り

06/05 06/12 06/18 ホタル観察会



観察会では、暗くなるにつれて、多くのホタルが飛来してきました。最も多くみられた所では、70匹以上のホタルが飛来してきた時間もありました。観察したホタルの光っている姿は、幻想的でした。今回得られた観測数や時間帯のデータはレポートに結果をまとめ、考察を行ったので、来年度以降の観察会に活かしていきたいです。

11/12 竹林整備 & 竹炭作り



竹林整備では竹を切り、選んで、枝を切り落としたので、1本切るだけでとても大変でした。竹林を整備するのは、多くの時間や人手がいることが分かりました。切った竹を乾燥させ、焼き、焼いた竹を水で冷やして竹炭を作成しました。竹炭は土壌改良剤などとして、活用できます。竹炭を作成しながら作った焼き芋はとても美味しくかったです。

自主企画を通じて

1年間様々な活動を、愛知こどもの国で行わせていただきました。各活動では楽しい中に、竹林の整備の重要性やタケノコを掘る向き、竹炭の活用方法、竹を焼くと竹に含まれる油分により、表面に光沢が出ることなどの様々なことを初めて学びました。それらのことがとても良かったので、実際に体験できたことがとても良かったです。活動の中で、自分の作品や展示をこどもの国に来園してくれた子供たちが遊んでくれたり、見てくれたことは、とても嬉しかったです。また自分達で調べて、苦労して作った料理は、とても美味しくかったです。

今年度、GAIAのメンバーには、活動を通じて得た知識や経験を次世代に発信する、アウトプットすることを期待していました。結果、当園で参加者と共に活動をし、活動内容を園内展示で発信することに乗り組んでいただき、当園に来園されたこどもに新しい知識や経験を与えることができたのではないのでしょうか。これは、こちらの期待以上の成果であったと思います。次年度もGAIAの活躍を期待しております。

愛知こどもの国
西岡 明則 様



another activity

GAIAでは、主要な9地域での活動に加えて、自主的な活動も行っています。メンバー間の交流を目的としたイベントやフィールドでの活動、活動報告など多岐に渡りますが、どの活動も生物多様性について自分の考えを深めることができる良い機会となっています。

定期ミーティング

毎月第3月曜日 20:00 ~ @オンライン



月一回、ZOOMにて定期ミーティングを開催しています。このミーティングでは、各活動の報告や各班の現状報告、今後の活動予定について、話し合いの場を設けています。また、新企画の提案やメンバー間の交流の場という目的もあります。

ブース出展をし、来場者にオリジナル絵本や竹で作成した生物多様性ピラミッドを使って、GAIAや生物多様性について楽しく伝え、「サステイナブル」を意識したマーケットを楽しみました！



スコシツツマーケット

2022/04/30 @岡崎市稲田公園

GAIAでは年齢や学校の垣根を超えたメンバーが所属しています。なので定期的にメンバー間の交流を深める機会を設けています。この交流会に参加することで、フィールド活動で多くのメンバーとコミュニケーションを取りながら楽しく活動することができます！

交流会

不定期開催



第29回 湿地サミット

2022/06/01 @長久手市 文化の家 森のホール



湿地サミットは、湿地保全活動に関わる団体・企業が集い、湿地の保全保護をテーマに県内各地の湿地・湿原を紹介するイベントです。私たちGAIAは「ユース世代と湿地の関わり」というテーマでステージ発表を行いました。また、GAIAブースを設置し、GAIAを知ってもらう良い機会となりました！

スマホで昆虫採取

2022/08/27 @岩倉市 自然生態園



昆虫の観察および撮影を行う活動です。撮影した写真は愛知県が提供する指標種チェッカーにアップロードし、生物多様性モニタリングマップに反映させました。様々な生き物を観察することができる楽しい活動です！

オオキンケイギク一斉駆除活動

2022/05/22 @西三河南部



駆除活動はいたってシンプルで根っこから引っ掻くのみです！ほかの植物と痛み、見た目以上に大変な作業ですが、合計1時間30分程度行い、ゴミ袋28袋分を駆除することができました！

天使の森 植樹祭

2022/11/03 @岡崎市稲田地区



人工林を伐採した土地で、どんぐりの苗を植え、そのどんぐりが育った環境下で地面に眠る埋土種子を発芽させる活動です。私たちの生活が生物多様性の恵みによって支えられていることを再確認することができる機会でした。

情報発信では、GAIAの行うイベントやフィールド活動をより多くの人に知ってほしい！という考えから、SNSでの発信や色々な制作物に取り組んでいます。今年はSDGs AICHI EXPO 2022に向けて特に力をいれて取り組んできました。今年制作した動画・パネル・オリジナルグッズを紹介します！

情報発信

動画作成

Movie >>

あなたもGAIAに参加してみませんか？

SDGs AICHI EXPO 2022の際に使用したGAIAとは何かを説明する動画と、今年度のGAIAの活動で印象深かったシーンを振り返る動画を制作しました。



他にも楽しい活動がいっぱい！



LINEの会話で物語が進行していくため、LINEのトーク中の動画を作るのに苦労しました。

活動

"GAIA"を広める活動紹介コンテンツ

活動紹介パネル

Presentation Panel >>

SDGs AICHI EXPO 2022にGAIAがブース出展することが決まったとき、見に来てくれる人たちにGAIAをわかりやすく伝えたい！と思い、パネルを制作しました。



このパネルは、メンバーや活動の内容が描かれたポスターです。写真は活動と交流のものを選び、赤いリボンで周りを覆って手紙のように仕上げました。文字がベースですが、より読みやすく堅く見えぬようにこだわりました。

EXPOで配布しました！

私達の活動ではこみなにもたくさんの生き物、風景に出会うことができるということが伝わるように春夏秋冬で見つけることができた生き物、風景の写真をポストカードに使用しました。

ポストカード

Post card >>



GAIAは活動の中で、昆虫や植物、綺麗な風景にたくさん出会います。その自然の魅力を知ってもらうには写真で伝えることが一番！と思いました。そして、手に取りやすく誰かに見せたいくなるようなポストカードを自指し制作しました。撮影者はGAIAユーザーメンバーです！

ボールペン

ballpoint pen >>



こだわりポイントは、このボールペンは小量繊維と樹脂を混合して作られており、プラスチックの使用量が抑えて作られていることです。つまり使えば使うほど地球にやさしいボールペンです。このボールペンを受け取った方はぜひとも長く使ってください。

GAIAオリジナル！グッズ

イベントなどで手軽にお渡しできるGAIAのオリジナルグッズを作成しました！ポストカードとロゴ入りボールペン、しおりです。

制作のきっかけはSDGs AICHI EXPO 2022で、簡単に配布できるペルティが欲しいということになり、初めて制作を依頼して作っていただきました。今後は、イベント以外にも、講演に呼んでいただいた際の配布グッズとしても活用していく予定です。



しおり

Bookmark >>

だれでも簡単に手軽に作れるがコンセプトです。葉をよく乾燥させるために、新聞に挟んで1週間ほど置くことで水分が抜けてうみネートの際に水分が染み込むのを防ぎました。落ち葉だけでなくカラフルな再生紙を使い、そこにGAIAのQRコードを載せることで宣伝の効果を持ったしおりを制作することができました。

GAIA企画・作成

オリジナル絵本

普段の活動で感じたことや考えたことを多くの人に分かりやすく伝えたい！というメンバーの思いから自主的な活動として不定期で、絵本を作成しています。この絵本作成はメンバーが改めて生物多様性について学ぶ機会ともなっています。

絵本のDLはこちらから



「このいきもの、しってる？～アサギマダラ編～」

このいきもの、しってる？
～アサギマダラ編～



DL: GAIA (2024)

アサギマダラの観覧会を行った際に子ども向けに作成した絵本です。アサギマダラはどれだけの距離を飛ぶのかなどを知ることができます。私たちの周りにはたくさんの生き物がいて、その生き物たちにはそれぞれの物語があります。何をしているのかな？と考えてみたら、きっと楽しいという思いが込められています。

「いきもののめぐみとわたしたち」



絵本のDLはこちらから



生物多様性をテーマにしたマーケットに向けて作成した絵本です。生物多様性は私たちの生活とどのような関わりがあるのか伝えようと思い作成しました。GAIAメンバーに実際にアンケートを取り、生物多様性守っていくには何ができるのか考え、絵本にしました。

「このカメ知ってる？ 名前は「ミシシippアカミミガメ」

このカメ知ってる？



絵本のDLはこちらから



9月に行ったミシシippアカミミガメの駆除活動での経験をもとに作成しました。「外来種は悪者！このイメージは本当なのか、外来種問題は生物多様性を保全する際に必ず対処しなければならぬ問題です。このことを多くの人に伝えたいと思い作成しました。

2022
GAIA
リーダー

村井 美乃里
人間環境大学 | 3年

今年度のGAIAの活動に関わってくれた皆様、ありがとうございます。私はリーダーとして力不足であることを痛感することが多かったのですが、運営メンバーや先輩方に支えられ、やりきることができました。その過程で改めて「GAIAに入って良かったな」と感じた1年でした。来年度以降もGAIAをよろしくお願いたします。

2022

Member

Introduction

新旧メンバー紹介

2023

2023
GAIA
リーダー

因藤 来夢
中部大学 | 2年

2022年度は新しいことにもチャレンジしステップアップした年でしたが、2023年度もこの勢いそのまま成長していきたいです！また、GAIAの活動は本当に楽しく様々な面で新たな発見をすることができるので、多くの人にとってもうい活動の輪を広げていきたいです！

2022
GAIA
副リーダー

松浦 大起
名城大学 | 3年

活動に対するメンバーの熱意、姿勢に感化される事が多くありました。メンバー一人一人が深く考え、主体的に行動できたことは誇るべきことだと思います。各活動が環境及び同世代を中心とした多くの方々への大きな影響を与えらることを実感しつつ、活動及び情報発信においてさらなる発展を目標として、今後も行動していきます。

2022
活動班
リーダー

伊藤 柚稀
人間環境大学 | 2年

活動班リーダーとして、愛知こども国での自主活動ではイベントを企画、運営を中心に、GAIAの活動に積極的に参加しました。活動では楽しみながら、環境保全活動の重要性など多くのことを学ぶことができました。またGAIAメンバーとの交流を深めました。GAIAで学んだことを今後活かしていきたいです。

2022
GAIA
副リーダー

羽賀 悠祐
人間環境大学 | 4年

活動を通じて、多くの人と関わり多くの活動ができることで、この先の人生の糧となる経験ができました。環境や生き物を意識した行動を心掛けていきたいです。

2022
情報発信班
リーダー

伊藤 響
名城大学 | 3年

今年度はフィールドでの活動だけでなく、パネルやシャツ・絵本・動画など、様々なコンテンツの制作をすることができました！来年度からも引き続き私達GAIAが現場に行ってみて五感で体験してきたことを感じてほしいと思います。

2023
運営
メンバー

矢田 澄賀
人間環境大学 | 2年

今年から運営メンバーとして活動することになり、不安なことが多くありますが、共に活動するメンバーといういろいろなことに挑戦していきたいと思えます！生物多様性やSDGsについて考えて行くことができるのは、将来の自分にとってより良いものになることを確信しているので全力で取り組んでいきます！

2023
情報発信班
リーダー

細川 嶺
人間環境大学 | 1年

情報発信班リーダーとして、GAIAでの活動やその魅力を十分に発信できるよう尽力したいです。また、情報発信班リーダー以前としてGAIAの活動に去年よりも多く活動し、生物多様性保全について知識や経験を積み、GAIAを通して大きく成長できるよう努力していきたいです。

2023
活動班
リーダー

鈴木 響太
名古屋立大学 | 1年

自然と触れ合うことの楽しさを感じ、また、人間社会と自然との関係を見直さなければならぬことの必要性を感じてGAIAに所属しています。活動班リーダーとして愛知こども国で自然と交わる様々な活動を企画したいです。1年間よろしくお願いたします。

2023
GAIA
副リーダー

枝光 駿寿
人間環境大学 | 1年

GAIAの活動を通じて、生物多様性や環境問題への関心が高まったのはもちろんですが、様々な活動場所でお話を聞く際に情報発信の課題を必ずと言っていいほど聞きました。GAIAは保全活動と情報発信の2つの軸で成り立っています。今年度は情報発信の重要性を更に高めて広報の強化に努めたいと思います。

WHAT'S
GAIA?

GAIAってどんな人がいるの？
どんな団体？
今年度新しく入会してくれたメンバーに、GAIAについてのアンケートを取りました！

Q. GAIAに参加した理由は何？

生き物に対する知識向上と保全のため

GAIAでの活動を通して、多くの経験や自然分野の知識を深めるため

活動が面白そうだったから

愛知県の自然環境を学ぶため

自然に関する活動がしたかったから

母がGAIAを知っていてパンフレットを見せてくれた

生物多様性のことは知っていたが、現地で活動をしたことがなかったため、現地で実際に行動している人と話したり、学びを深めたいと思ったから

学校の授業でボランティア活動に参加するという課題が出されたから

Q. GAIAのいいところって何？

色々なイベントに参加する機会が得られるところ

なぜそれが環境問題になっているのか理由を知ることができる

他大学の学生と交流ができる

生態系について学べる場所、様々な立場の人と関わることができる

活動の種類が多く、楽しみながら学ぶことができる

自然のことが色々と知ることができる

ホテルを見るとき、自然では経験できないことを学ぶことができる

STATUS

設立：2019年

メンバー総数：85名 (2023年2月)

所属：

人間環境大 / 大同大 / 中京大 / 中部大 / 南山大 / 名古屋学院大 / 名古屋工業大 / 名古屋市立大 / 名古屋商科大 / 名古屋大 / 名城大 / 愛知教育大 / 名古屋大学大学院 / 大原簿記公務員専門学校 / 瑞陵高校 / 知多湖陽高校 / 安城東高校 / 金城学院高校 / 小学生 / 社会人

所属学部：

工学部 / 理工学部 / 環境科学部 / 経営学部 / 経済学部 / 外国語学部 / 国際英語学部 / 商学部 / 情報学部 / 人文社会学部 / 総合政策学部 / 都市情報学部 / 農学部 / 法学部

Q. GAIAに参加してできるようになったことは何？

環境問題に興味を持つようになりました

環境のことを以前よりも考えるようになりました

自然好きな学生と交流することができました

生態系に関する活動(保全や調査)ができるようになりました



西岡 明則 様
西尾市 愛知こどもの国
2022年度は竹林整備、ホタルやこんちゅうの観察会などの活動をしていただきありがとうございます。また、当園のお客様と共に活動し、その内容を園内の展示スペースにて発信することで、GAIAのメンバーだけでなく、来園されたお客様とも様々な体験や学びを共有することができ、次世代へのアウトプットに繋がったと思います。



玉村 大介 様
美浜町 モリビの会
地球には私たち人類以外にも様々な生命が存在しています。鳥や動物、そして植物、微生物。皆さんが飼っているペットでさえ、同じ地球で生活しています。いつまでも生命が続くため、まわりの資源を有効活用することを、みなさんと一緒に体験して、ともに感じることができればうれしく思います。



谷地 俊二 様
人間環境大学人間環境学部 環境科学科
たまにイベントに飛び入り参加させてもらいましたが、いつも笑顔で声をかけてくれますよね。発足当初から変わらず、あたたかな、いいチームと感じます。これからも生物多様性の輪を広げながら、人と人の輪を広げていきましょう。最後に、所属先から卒業するメンバーのみならず、これからもよろしくね！



水岡 恵子 様
長久手湿地保全の会
湿地は、1つ1つの面積が小さく、放っておくと消滅してしまうこともあります。湿地を守るには、人の手による刈刈り等の作業が必要です。GAIAの皆さんには、保全体験の中でミミキグサなどミリ単位の小さな花を発見した時の感動を大切に、湿地保全の重要性を次世代に伝えてほしいと思います。

Mess GAIAへのメッセージ

お世話になった方よりメッセージをいただきました。



上岡 和弘 様
大同大学 情報学部 情報デザイン学科
GAIA情報発信の意義は、その活動を社会に発信する事と、仲間同士の絆を育むことにあります。君たちは、今年も1年かけてその活動を全うしましたね。私は、ここに至るまでの全てのプロセスこそが、最も大切な情報発信活動だったと思います。1年間お疲れ様でした。来年度も期待しています。



小串 重治 様
グリーンフロント研究所株式会社
2019年度から4年間……メンバーが代わりながらも、徐々に充実度を増しながら【進化】し続けているGAIA活動を応援させてもらいながら、皆さんの笑顔から、私の方が【元氣】を頂いています。今後とも、愛知県下の生物多様性保全の場、最前線に笑顔を描き続けて頂きたいと思います!!



宮田 紀英 様
グリーンフロント研究所株式会社
「生物多様性、の一路で重ねられたさまざまな出身の学生の社交場、これこそGAIAの今だと思えます。学生団体のあり方はいろいろですが、まずは一人一人が現場を五感で体験することが森羅万象の根幹だと信じています。皆さんの活動をより充実させるべく、事務局としても個人としても応援いたします。



石原 智一 様
愛知県自然環境課
1年間おつかれさまでした！GAIAの皆さんが楽しみながらも真剣に保全活動に取り組む姿は、本当に頼もしく、輝いて見えています。皆さんの活動が生物多様性を守り、持続可能な社会の構築を支えています。GAIAの活動を続けてたくさん学び、自らの成長に繋げていってください。これからも応援しています！



杉本 安信 様
愛知県自然環境課 課長
ユース世代が中心となり、生物多様性に係る「保全活動」と「情報発信」に取り組むオール愛知のユース組織「GAIA」は、今年、活動開始から4年目を迎えました。4年目となる今年度は、県内9地域における保全活動に加え、スコシツツマークット、SDGs AICHI EXPO2022などのブース出展や取組発表、愛知こどもの国における保全活動などの自主企画も充実しており、ユースの成長が感じられる1年でした。2022年12月、カナダ・モントリオールにおいて、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）が開催され、新たな世界目標が採択されました。2050年までの長期目標「自然と共生する社会」の実現に向け、次世代を担うユースの皆さんによる「生物多様性保全」への取組は、持続可能な社会の構築、世界目標の達成に向けた重要な取組です。活動を通して、たくさん学び、課題解決にチャレンジしてください。ユースの皆さんの活躍にこれからも注目していきます。

編集後記

GAIAアニュアルレポート2022を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。楽しんでいただけましたでしょうか。

今年は去年に引き続き様々なフィールドで活動することができました。情報発信も動画作成やパネル作成などのクリエイティブな活動に加え、AICHI SDGs EXPOやスコシツツマークット、湿地サミットなどのブース出展といった制作物を展示・発信の場にも恵られました。

個人的にも長ノ山湿原や東三河ふるさと公園での定期的な活動に参加させてもらい、特に植物について多くの学びを得られる年になりました。まだまだ未熟ですが、来年もたくさんフィールドに行こうと思います。

2022年度のGAIAの活動にご協力・応援してくださった皆様、ありがとうございます。また来年度も一緒に活動することを楽しみにしています。

2022年度 情報発信班リーダー

伊藤 響



GR制作・編集参加メンバー

私は表紙、裏表紙のデザインを担当しました。GAIAの皆さんが一生涯懸命に努力を見て自分もい物を作ろうと思えました。皆さんの意見をまとめて作ることは難しかったですが楽しかったです。

文章をうまくまとめるのが大変だった

小室 直生

その活動で学んだことを振り返ることができました

三治 蒼

写真の選定が大変で...活動の力は伝わりましたか?

中島 さくら

活動を振り返るよい機会になった

鈴木 響太

次年度もたくさんチャレンジしていきたいと思いました

因藤 来夢

活動を振り返りながら楽しく制作できました

枝光 駿寿

学んだことを改めて考えるきっかけになりました

村井 美乃里

活動を振り返るいい機会になりました

羽賀 悠佑

自分達が学んだ事を多くの人に知って欲しいです

伊藤 祐稀



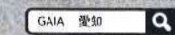
情報発信班
表紙デザイン担当
長谷川 祥

INFORMATION

私たちと一緒に活動してみませんか？
GAIAへの参加申込はこちらから（愛知県 自然環境課HP）
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/2016gakusei.html>



活動情報はHP・SNSで発信中！





2023年3月発行

生物多様性あいち学生プロジェクト GAIA

Mail: gaia2020.member01@gmail.com

2022年度事務局 グリーンフロント研究所株式会社

ご支援いただいた機関

愛知県 環境局 環境政策部
 自然環境課 国際連携・生態系グループ
 Tel: 052-954-6229

